第２回「社会教育人材ネットワークを活用した地域づくり活性化事業」検討会議　議事録

日　時　令和８年（2026 年）10 月 20 日（火）10:00～11:30
場　所　オンライン（配信：北海道立生涯学習推進センター）
出席者　別添「出席者名簿」のとおり
説　明　北海道における社会教育人材ネットワークの在り方について
事務局から資料１～４に基づき説明
質疑応答
・（宮田委員）プロジェクトチームの選定はどのように行ったか。
⇒全て、公募による申込みで、特に掘り起こし等は行っていない。
・（金子委員）資料３にある評価のポイントにおいて、重点としているところはどこか。
⇒１～３については、既に達成できるところがあると思われるので、４及び５について、審査が難しくなるところ。事業趣旨にあるように「社会教育士がチームに入ること」を踏まえ、社会教育士がどのような動きをしているのか、審査できるようにしたい。
・（本間委員）活動の中で、うまくいかなかったところをどう乗り越えたか、という部分が重要。
⇒審査の際に、苦労した点など、審査員から質問していただきたい。
・（平田委員）評価の際に無理に数値で示さなくても、コメントベースとして、審査員で議論できればよいのではないか。
⇒６人の審査員で審査をしていただき、意見交流を踏まえ、優秀賞などを決定していきたい。

話題提供　地域課題の検討～事例研究②「学校と地域のネットワークについて」
（１）　本間委員から資料５に基づき説明
（２）　金子委員から資料６に基づき説明
＜質疑応答＞
・（平田委員）ネットワークは一朝一夕に形成できるものではないので、労力を惜しまず地域をつないでいる社会教育士がいて心強い。また、地域の在留外国人のとの関係において、地域づくりを行う活動をする際に、社会教育士とつながれないのだろうかということを感じており、一緒に活動できるとよりよいのではないか。
・（野本委員）地域コーディネーターは、何人くらいいて、報酬等は発生しているのか。
⇒（本間委員）中標津町は、小中高校に各校１名ずつ配置されている。道立の中標津高校は、探究のコーディネーターが今年から１名配置されている。町の地域コーディネーターは、報酬はないので、ボランティアベースで活動している。
⇒（石川委員）士別市は、市街地に２名、他の地区に３名いる。その意外に高校に２名いる。報酬は国の補助金を活用し、支払われている。
・（金子委員）つなぐ人を支えることは重要と考えている。中標津町の地域性の特徴はあるか。また、士別市について、どのような仲間と協力して活動しているのか。
⇒（本間委員）札幌と比べると人との距離感が近い。よい距離をとりながら、一生付き合いのある関係となっている。

⇒（石川委員）自分は、人に恵まれており、様々な方とつながっており、キーパーソンとなる方と一緒に活動することが多い。同じ思いのある人同士で、活動している。自分が発信しても、誰かと一緒に活動することができる。

・（宮田委員）障がいがある方はどのように、活動に関わっているのか伺いたい。

⇒（本間委員）手話の会の会員が少なくなっているので、学校運営協議会で議論したところ、会員が 30 名以上となった。授業にも取り入れされている。また、メンタルヘルスの授業では、どうして心の病になってしまったのかなど、当事者の方が各校を回ってアサーションなどの授業など、保健福祉の先生が行っている。

⇒（石川委員）小学校で車椅子ラグビーや手話、耳にイヤマフを付けての体験など、行ったことがある。今後も障がいの有無にとらわれない活動を行っていきたい。

その他

○　事務局から、次回は 2 月上旬に開催するため、日程調整を行う旨、説明